

職員創作の紙芝居『雨水のぼうけん』 デジタル版を公開！

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育の教材等として教育関係者や一般の方々にも広く利用いただけるよう、紙芝居『雨水のぼうけん』デジタル版を、7月28日に当局ホームページ上で公開しました。

この紙芝居は、当センターの職員が制作したもので全編オリジナルの作品です。

本編は、主に小学生を対象に、森林が雨水を貯え、きれいな水を育む仕組みを学んでいただけるよう、小さなお子さんにも親しみやすい絵と分かりやすい言葉使いを心懸けた15枚のスライドで構成しています。

この物語は、主人公の小学生ユウちゃん、祖母の家で飲んだ水道水のおいしさに感動し、そのおいしさの秘密を知りたくなることから始まります。ユウちゃんは、空想の世界で雨粒の妖精になって森に降りそそぎ、木の葉っぱからスポンジのような森の土に降りて様々な探検や体験をします。その過程で秘密の答えを見つけていくという物語です。



森と水などの関係については、小学4年生の理科・社会、5年生の社会や6年生の理科で学習することになっており、その補助教材としての活用に期待しています。また、3年生以下の児童や未就学のお子さんへの御家庭等での「読み聞かせ」などにも利用いただけることを期待しています。



第1回 箕面森林ふれあい推進センター運営推進懇談会を開催

当センターの効率的・効果的な運営推進を図るため、学識経験者、森林ボランティア活動関係者及びマスコミ関係者による専門家委員4名と内部委員3名で構成された運営推進懇談会を、毎年度2回程度開催しているところです。

今年度第1回目を、7月22日(水)新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ウェブ方式で開催しました。

懇談会では、令和元年度の事業実施状況及び評価、令和2年度の活動予定について、各担当者から説明を行い、各委員との質疑応答を行いました。

専門家委員からは、「森林環境教育プログラムである森の探検隊の探検ポイントを中学生・高校生向けに拡充を検討するとの説明があったが、具体的な内容はあるのか」、「前回要望している学習ルートのモデルコース設定については、検討はどこまで進んでいるのか」、「里山再生事業箇所において、植生等調査を行っているとの説明があったが、これまでの調査結果を年度別にとりまとめられていると思うので見せて頂きたい」、「令和元年度ニホンジカの生息状況外モニタリング調査によるシカの利用ポテンシャルマップは良いデータなので、今後検討予定の箕面国有林における個体数管理指針に盛り込んでどうか」、「森林環境教育手引書(小学校編)について、学習指導要領が改訂されていることから、手引書の改訂に取り組む必要がある」、「情報発信の方法について、SNSやフェイスブックなどを追加してはどうか」、「創作紙芝居「雨水のぼうけん」は良い教材であることから、さらにテーマごとに作品を作ってはどうか」と言った多くの意見や助言を頂きました。

専門家委員から頂いた意見や助言を踏まえ、実施可能なものから取り組むこととしています。

